

北海道支部第4回研究大会報告

11月23日、北海道大学大学院環境科学院において第4回研究大会を開催しました。基調講演者として、札幌国際大学教授で地域・産学連携センター長である綱島洋一氏を招聘しご講話頂きました。また、会員と一般参加者による研究・事例報告は9件でした。

綱島氏は移住者に対する取材のなかで得たフロンティアスピリットの事例を紹介し、北海道に生まれ育った者もフロンティアスピリットを奮い立たせ、ともに新しい次代を切り拓こうと語りかけました。

紹介されたのは、学生時代に道内を自転車でツーリングし、人々のおおらかさを感じて北海道に移り住み、「北海道を元気にする天気予報」を仕事している女性、国内外から移住し後志や空知地域でその土地の自然環境や文化を反映したワインづくりに励む醸造家たち、奥尻島への国内留学を選択した高校生などの事例です。

また、世界的なスキーリゾートとして知られるニセコについても、地元が抱える悩みについて触れ、多面的に捉えることが必要との考えを示されました。さらに海外のスキー愛好家がニセコや富良野だけでなく名峰利尻岳に注目しているなど、北海道には未開発の地域資源があることを改めて指摘されました。これらの事例を通して人口減少や産業の衰退などに直面する地域課題の解決を、「北海道ファン」の移住者に任せていて良いのかと問いかけ、行政、企業、住民の利害を調整し、次代を創造できる地元人材の重要性を訴えました。(文責：八反田元子)

続いておこなわれた研究・事例報告のタイトルと発表者(敬称略)は以下のとおりです。

- ・親も子も共に育つ、森のようちえん 森のたね (森のようちえん 森のたね 中井 裕之)
- ・地域振興としての HAC の存在 (株北海道エアシステム 井上 温基)
- ・趣味縁から見た都市空間のジェントリフィケーション ～札幌の事例から～
(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 加藤 康子)
- ・空き旅館の再生 ～伯村旅館から haku hostel へ～ (白老 HAKU ホステル 菊地 辰徳)
- ・観光協会への支援から考える今後の観光地域づくりの方向性 (公益法人 はまなす財団 小倉 龍生)
- ・働き方改革の前にご存知ですか？ (労働審判制度グループ・ダイナミクス総合研究所 藤原 靖広)
- ・「広域連携」としての観光地経営政策について -台湾における観光の広域連携に関する実態や課題-
(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 翁 譽真)
- ・北海道の歴史的建造物に関する一考察 -地域資源の視点から- (札幌国際大学 田村 こずえ)
- ・未利用資源の活用による冬季の観光まちづくりの促進過程 スウェーデン・アイスホテル創造の事例
(北海道大学観光学高等研究センター福山 貴史)

